

第4回 部会検討結果報告書 (文化・学習部会)

記録者	來栖 翔悟		場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室	
開催日時・場所	平成28年9月10日(土) 午前10時00分 ~ 12時				
出席者 (12 名)	加藤 恒夫	木村 和雄	小島 由美子	清水 文衛	
	塩飽 隆典	中田 徳彦	廣田 慎子	藤井 加津子	
	本田 成親	北川 清貴	來栖 翔悟	須田 到	
傍聴者	0名				

基本施策名	男女共同参画の拡大
-------	-----------

今後(後期期間で)予想される新たなニーズ・課題(ウ)について

予想される新たなニーズ

- ・ 女性の社会活動阻害要因の多様化
- ・ 市や議会の男女比率の明確化

後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

男女共同参画の推進

- ・ 市役所や市内の企業が中心となり、長時間労働の是正を行う。
- ・ 女性が働きやすくなるよう、男性が育児休暇を取得しやすいようにする。
- ・ 子育て、教育、仕事とのバランスや家庭問題で悩む人々の具体的な交流の場の設置。
- ・ 男女（夫婦）間の、収入の差への考慮が必要。
- ・ 市として具体的なサポート活動の推進。
- ・ 女性の社会活動支援の施策の策定。
- ・ 氏や議会の構成・比率の明確化。
- ・ 男女と区別することを見直す必要がある。
- ・ 共同参画の言葉について見直すことが必要。

（DV関係）

- ・ DVについて、第三者も相談できるよう相談体制の充実を図る。
- ・ DVは、男性から女性だけでなく、女性から男性もあるため、その検討も必要。

協働の実践に向けて（オ）について

男女共同参画の推進

- ・ 地域のコミュニケーションの活発化。
- ・ 家事、育児のサポート（市民の力を活用）
- ・ 女性センターの積極的活用。
- ・ 市内企業への働きかけ。
- ・ 「女性」と表記することについて見当が必要。

（DV関係）

- ・ 学校や企業、地域と連携を図り、DV関連講座の実施をする。

第4回 部会検討結果報告書 (文化・学習部会)

記録者	來栖 翔悟		場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室	
開催日時・場所	平成28年9月10日(土) 午前10時00分 ~ 12時				
出席者 (12 名)	加藤 恒夫	木村 和雄	小島 由美子	清水 文衛	
	塩飽 隆典	中田 徳彦	廣田 慎子	藤井 加津子	
	本田 成親	北川 清貴	來栖 翔悟	須田 到	
傍聴者	0名				

基本施策名	文化・芸術活動の支援
-------	------------

今後（後期期間で）予想される新たなニーズ・課題（ウ）について

予想される新たなニーズ

- ・ 文化的意味を学ぶ場が必要。
- ・ 指定管理で明らかになった具体的な問題、課題はどのようなものか。

後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

市民の文化・芸術活動の支援

- ・「市民文化の日」の活用。
- ・小・中高への府中の歴史文化の授業。
- ・大きなイベントだけではなく、気軽に実施できるイベントの検討。
- ・転入した新しい市民へ、文化・芸術に触れる機会を作る。
- ・市内高校、外語大へ文化施設にきてもらい知ってもらう。

文化施設の有効活用

- ・指定管理制度の導入後、問題や課題の明確化。
- ・熊野神社の駐車場の設置。

歴史文化遺産の保存と活用

- ・市としての特徴的な芸術分野の育成
- ・一線を引いた、あるいは現役でも意識の高いスペシャリストの活用。

（その他）

- ・目標値の設定の見直し。
- ・広報紙などで積極的にPRする。
- ・目的、ターゲットの明確化。

協働の実践に向けて（オ）について

市民の文化・芸術活動の支援

- ・市内の学校は、郷土の森へ必ず行ってもらう。
- ・動機付けのため、定期的に小さなイベントなどを実施する。

文化施設の有効活用

- ・新庁舎建設に伴う、府中本町駅から府中駅まで一体開発。
- ・他の施設、他の団体とのコラボ企画の実施。

歴史文化遺産の保存と活用

- ・大手企業とスポンサー契約を結び、互いにメリットを作る。

第4回 部会検討結果報告書 (文化・学習部会)

記録者	來栖 翔悟		場所	市役所北庁舎第1・2・3会議室	
開催日時・場所	平成28年9月10日(土) 午前10時00分 ~ 12時				
出席者 (12 名)	加藤 恒夫	木村 和雄	小島 由美子	清水 文衛	
	塩飽 隆典	中田 徳彦	廣田 慎子	藤井 加津子	
	本田 成親	北川 清貴	來栖 翔悟	須田 到	
傍聴者	0名				

基本施策名	青少年の健全育成
-------	----------

今後(後期期間で)予想される新たなニーズ・課題(ウ)について

・特になし

後期基本計画策定に向けた見直しの論点（H30～33年度）（エ）について

青少年の健全育成

- ・青少年の活動の場づくり。
- ・中高生の居場所の具体化。
- ・相談体制の設置、充実化。
- ・相談者の情報管理・共有。
- ・支援者、担当者が変わらず、長期的な支援が必要。
- ・不登校からひきこもりの支援として、中学校や高校との連携。
- ・青少年の実態把握の必要性。
- ・夜間中学等もっとわかるように。
- ・子どもの貧困について、地域で把握する。

協働の実践に向けて（オ）について

青少年の健全育成

- ・貧困対策、居場所づくり、学習、子ども食堂、フリースクールなどの検討。
- ・ひきこもりについて市で把握し、援助していく。
- ・多様な問題に対する専門家の活用。
- ・子どもの頃から地域とつながれるよう、早くから子ども会や地域運動会などを開催する。
- ・青少年や民生委員等の団体と、問題点の共有。
- ・価値観の多様化の理解。